

恵庭岳

1 概況

山頂東側の爆裂火口上部で弱い噴気活動が継続しています。

2 上空からの観測結果

3月23日に北海道開発局の協力により実施した上空からの観測では、山頂東側の爆裂火口上部から弱い白色の噴気が認められました。その状況に変化はありませんでした。



南東側上空から見た山頂東側の爆裂火口

参考

約 15000 年前の大規模な軽石噴火以降、山頂付近や山体の東麓や西麓において、溶岩ドームの形成や溶岩の流出が続きました。恵庭火山における最後のマグマ噴火は約 2000 年前にありました。約 1700 年間の休止期の後、17 世紀初めに山頂部で水蒸気爆発が発生し、山頂東部が大規模に崩壊して火口を形成しました。崩壊物は岩屑なだれとなって山体を流下し、支笏湖に流入しました。この爆裂火口形成後、約 150 年の間に少なくとも 2 回の水蒸気爆発があり、それに伴う土石流が発生しています。